

一期生・二期生の先輩方の合格・内定体験記

◇ 鹿児島県立短期大学 商経学科 経営情報専攻 一期生:商業科(大隅中出身)

私が進学を選んだのは担任の先生からかけていただいた一言がきっかけです。実は、高校入学時から卒業後は、金融機関に就職したいと考えていました。しかし、高校で簿記や会計を学んでいくうちに、どんどん面白くなってきて、もっと深く学びたいという気持ちが強くなり、3年生の夏休みまで就職しようか、進学しようか、悩んでいました。そのことを先生に相談すると「大学から銀行には進めるけど、銀行から大学に行くのは難しいよ。」と言って下さいました。私はその時、どの道いずれは就職するのなら、今は今しかできないことを優先しようと思いました。そして、大学に進学して、興味を持った簿記や会計を学問的な視点から学び、経済に関する幅広い知識と高い専門性を身につけ、またサークル活動やアルバイトを通して多くの方と出会うことで、自分の価値観や視野を広げたいと思い、私は進学することを決めました。

私が受験した推薦入試は、小論文と面接がありました。私はもともと文章を書くことが苦手で、小論文は、最初はとても苦労しました。具体的に対策を始めたのは、3年生の夏休みからです。最初は何を書けばいいのかも分からず、丸一日考えたこともありました。しかし小論文というのは、回数を重ねれば、慣れてきて、自然とコツを掴み書けるようになります。大切なのは、様々なテーマの小論文に触れ、情報を集めながら何回も書き直し、客観的に物事を捉える思考力を鍛えることだと思います。さらに小論文は、実際に起こっている社会問題や出来事がテーマになる可能性も高く、毎日ニュースを見たり、新聞を読んだりして情報を集めました。そして、最低でも1日1つ記事をノートに張り、その記事に関して自分の考えを書きました。様々な情報を持っていると、小論文や面接でも必ず生きてきます。

面接は、1人の先生に深く掘り下げて練習していただきました。特に出願書類の一つでもあった志望動機や自己PRは、すべての根幹となるため深く掘り下げて自分と向き合い、納得のいくまで何度も考え抜きました。そうすることで、面接でも堂々と言えますし、例え予想していない質問が

来ても根幹に立ち返って考えることで焦らず、一貫した受け答えができます。まずは自分の根幹をつくり、ぶれない芯を持つことが大切です。

鹿児島県立短期大学は、受験時期が遅く、周囲が次々と進路が決まる中で、焦りやプレッシャーも大きくなりますが、合格発表で自分の受験番号を見つけたときは、高校入試の時と比べものにならないくらい嬉しかったです。後輩の皆さん、高校在学中に積極的にオープンキャンパスに足を運び、様々な情報を入手し、たくさんの選択肢の中から是非悔いのない進路選択をしてください。

◇ 株式会社オオゼキ

一期生:普通科(末吉中出身)

私はたくさんの人と関わる仕事に就きたいと思うと同時にその関わりの中で人として成長していきたいと思い、県外で働くことを選びました。

3年生の5月から面接ノートを作成しました。その頃はまだ行きたい企業が決まっていなくて、夏休みは毎日進路指導室に通い、情報収集をしました。面接の練習は失敗もたくさんあり、とても大変でした。試験前日までたくさんの先生方に指導していただきました。そこで、いつも心がけていたことは笑顔でいることでした。帰宅したら鏡に向かって志望動機を言い、どのような内容が笑顔になれるか工夫しました。また就職試験では苦手な数学があり、対策がとても苦しかったです。しかし、試験では企業の雰囲気も良く、面接・筆記試験共に緊張せずに受けることができました。

後輩の皆さん、まだまだ時間があると思わず少しずつ自分がどこに行きたいか、どんな職業に就きたいかをイメージして求人票を見てほしいと思います。進路実現に向けて、とても悩んだ時期もありましたが、自分を追い込まず、常にポジティブに物事を考えるようにして気分転換をしてきました。後輩の皆さんも心の持ち方を大切にしてください。

